

戦時体制の深化を反映した正金銀行の実相を明らかにする

横浜正金銀行 第9期

マイクロフィルム版

2013年12月発売予定

編集: 武田晴人 (東京大学教授)

16ミリマイクロフィルム 全 91 リール セット特価 ¥1,820,000 [税別]

第9期の構成(下記価格はすべて本体価)

第1集: 資産・資金凍結関係	7リール (リール番号 1014~1020)	分売価 ¥161,000
第2集: 満州支店関係	13リール (リール番号 910~922)	¥299,000
第3集: 円域雑関係	47リール (リール番号 923~969)	¥1,081,000
第4集: 軍票関係	12リール (リール番号 970~981)	¥276,000
第5集: 中国財政関係	12リール (リール番号 1021~1032)	¥276,000

「横浜正金銀行」第9期は、分類の異なるいくつかの資料群から構成されている。いずれも昭和戦前期のものであり、とくに戦時体制が深化した時期の資料群が多く、新しい発見に満ちたものである。

第1集は、頭取席外国部の下でまとめられた資料 20 点であり、ルーズベルト米国大統領が昭和 16 年 7 月に行った対日経済制裁に関連して作成されたもの。関係国・地域の法令を、あるいは各国の措置を順次、本店に報告した記録である。

第2集は、戦時体制の深化とともに急増する満洲国内での軍費等、日本政府の国庫金支払資金の調達措置に関連した書類のほか、現地農産物の収買資金供給に関する資料など、満州における正金銀行の位置を鮮明にする貴重な資料群が収録されている。

第3集は、円ブロック内の広域の為替取引等に関わる措置などをまとめたもの。広域の関係支店の経営状態については、資金繰予算や各種の計数をまとめた大きな表の綴り、日報などのデータが多数収録されている。

第4集は、原資料を正金銀行史の編纂の為に整理し、倉庫に収蔵する際に「軍票関係」として分類されたと思われる資料群。

第5集は、第3・4期の出版によって公開された対外投資に属する資料であり、ここに対外投資関係資料の全容がカバーされたこととなる。